

週日の説教

金 大烈 神父 2009年6月16日(火)

《信仰をとおして何を望んでいるのか?》

今日の福音(マタイ 5・43 48)は、軽い気持ちで聞いてはいけない、全て本当に大事な御言葉です。カトリック信者としての、正しい道の基準になるものだと思います。そして、このような福音に接するときには、本当に自分のものになるように、深く黙想していただきたいです。

これから皆様に5分間の時間を差し上げます。

「私は、この信仰を通して何を望んでいるのか」、「本当に望んでいるものは何なのか」、「この信仰を通して求めるものは何なのか」黙想してください。そして「なぜそうなのか」、「どうすればよいか」も考えてみてください。

かなり基本的な質問です。大切なのに、私たちはよく忘れてしまうことです。ですから、今、時間を5分間差し上げます。本当によく考えてみてください。そして、「その望みに相応しい私の態度は何なのか」も考えてください。

(5分 黙想)

おそらく十分な時間ではなかったと思います。

とにかく、『何を望んでいるのか』は、誰もが問われる質問なのかもしれないのに、意識しないで信仰の生活をしている人が、ほとんどではないでしょうか。私たちが本当に何を望んでいるのか、結局、それは目的意識ですが、その目的意識にあわせた生き方をすることができれば、何とか今よりもっと生き生きとした自分が見えるのではないかと思います。

そして、「何を望んでいるのか」がはっきりしたら、「その望みが正しいのか」そのためにも、時間をかけなければなりません。

大体私たちは、子どもの時には子どもの心に合ったいろいろな望みを持ちます。大人になると大人の心に合った望みに変わります。望みは、年齢によって違います。健康の状態によっても違います。環境によっても違います。

今、自分が望んでいるものは何なのか、そしてそれが本当に相応しいものなのか、正しいものなのか、自分のために本当によい望みなのか、やはり少し時間をかけて考えてみますと、答えを得られると思います。

とにかく、私たちの信仰は希望です。今日の福音の中の『あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。』というイエス様の言葉には、「正しい希望を持って自分と戦いながら生きなさい」という意味があることを今日の福音を通して考えてみましょう。

ありがとうございました。